

会 議 録

会 議 の 名 称		令和４年度 豊中市情報化計画策定評価委員会 第２回会議	
開 催 日 時		令和５年（２０２３年）１月３０日（月） １５時１５分～１６時３０分	
開 催 場 所		デジタル戦略課会議室 （ＮＴＴ西日本豊中ビル６階 豊中市北桜塚１－４－１）	公 開 の 可 否 ☒ 可・不可・一部不可
事 務 局		総務部 デジタル戦略課	傍 聴 者 数 ０人
公 開 し な か っ た 理 由			
出席者	委 員	○豊中市情報化計画策定評価委員会委員７名 井上委員・園田委員・友清委員・中野委員・野村委員・吉田委員・脇浜委員 （五十音順）	
	事 務 局	総務部：藪床部長 総務部 デジタル戦略課：伊藤課長・橋課長補佐・坂西主事・南部	
	そ の 他		
議 題		１．答申書（案）について	
審 議 等 の 概 要 （主な発言要旨）		別紙のとおり	

審議などの概要（主な発言要旨）

発言者	内容
＜開会＞	
＜成立要件の確認＞	
事務局	豊中市情報化計画策定評価委員会規則第6条第2項に基づき、委員会は、委員の過半数の出席を必要としている。本日は、委員総数7名中、7名の委員の出席があり、成立要件を満たしている。傍聴は0名である。
＜案件1．答申書（案）について＞	
委員長	本日は第1回会議の意見をもとに作成した答申書（案）について、委員会としての意見を取りまとめる。
事務局	（資料に基づき説明）
委員長	答申書（案）について各委員の意見をお願いしたい。
委員	予算の確保に重点を置いてほしいという意見を答申書（案）に盛り込んでいただき、全体的には修正追加等の意見はない。 メリハリをつけるという意味で、強化月間や強化年度を設け、絞り込んだ重点施策を行う等を追記してはどうか。
委員	情報化に誰ひとり取り残されない環境づくりのために、情報格差の解消に向けた取り組みを行う必要があるという意見が答申書（案）に盛り込まれており、追記の要望はない。 デジタル化推進のためには、アナログとの融合が重要と考えている。教育や広報の重要性とは別に、アナログ的な部分を重視するという要素を答申書に追記してもいいのではないか。
委員長	デジタルとアナログの融合という考え方は、分野的にはデジタルツインというが、デジタルツインは分野毎に言葉の定義が異なる。 オンラインによる会議等が増えたが、対面で相手の表情を見ながら話すことの重要性を再認識した。
委員	答申書（案）はよくまとめられている。今後、自治体の標準化等、2025年度が大きな転換期になると思われるため、そこに配慮した記載があっても良いのではないか。
委員	デジタルの肝は「データをいかに収集して活用するか」である。デジタルでは大きなものも小さなものもすべてが繋がる。今後の取組みにおいて、デジタル推進することは何が良いのか立ち返りながら取組みを推進いただきたい。 答申書（案）は基本的な7項目になっているが、SDGsやエネルギー問題（カーボンニュートラル）、防災等、社会的に注目を集めているテーマについても、後継戦略の次の段階になるかもしれないが、考えていく必要がある。
委員	答申書（案）はわかりやすい言葉でまとめられていると感じる。市民との連携を答申書（案）でも打ち出しているが、デジタル化推進のためには市民の皆さんの意識を変えていくこと、一緒につくるという雰囲気の醸成が重要と考えている。 広報の充実の具体案は今後の検討事項かと思うが、動画を一つ作って終わり、と

発言者	内容
	ということにならないように継続的な取組みとなるような土台を作ってほしい。 誰ひとり取り残されない、ということに固執して、突出したものを制限することがないようにしていただきたい。 デジタル技術は日々進展しており、後継戦略策定後も技術の進歩に応じて計画の見直しを行う等、柔軟に対応いただきたい。
委員長	広報への動画活用アイデアがあればお聞きしたい。
委員	まずは、後継戦略のパワーポイントの資料にナレーション等をつけたものを発信することから始めても良いと思う。継続的な発信が重要であり、他にも市民等と連携や、ライブ配信などができる面白いのではないかな。
委員長	ナレーションを入れられるのは良い。ただし、発信する内容は齟齬が生じないように注意する必要がある。
委員	答申書（案）はきれいにまとめられているが、内容として市民の力を使うという観点をもっと入れるとより良いと思う。答申書（案）３ページ目の項番６はもう少しわかりやすい文章に変更していただきたい。
委員長	答申書（案）の内容についてはほぼ問題ないということなので、答申書については委員長に一任いただいてもよろしいかな。
他委員	問題ない。
委員長	本日の議題としては以上になるが、各委員一言ずつコメントをいただきたい。
委員	豊中市は多くの自治体に注目されており、自治体だけではなかなか殻を破れないことにもチャレンジしてほしい。 災害のリスク（南海トラフ地震等）に備え、意識を高める必要があるので、今後はデジタルデバйд対策に加えて防災にも力を入れてほしい。
委員長	豊中市は日本に１，７００以上ある基礎自治体の中でもかなり注目されていると感じている。これは、とよなかデジタル・ガバメント戦略のようにわかりやすい言葉で計画を市民に伝えている点が評価されているものと思う。
委員	最近ではデジタルとアナログとの関係を考えている。デジタルはアナログを隠してしまう部分がある。デジタル化は出来上がったものを見ると当たり前のもののように感じられるが、その裏には様々な努力がある。そういったものを感じてもらえるデジタル化を行ってほしい。
委員	デジタルとアナログという観点では、利用者からは今まで通りのよう申請等をしているが、その後の事務処理がデジタル化されているというアナログとデジタルの融合された状態が理想と考える。
委員	後継戦略を通じて目指す姿を市民がイメージしやすい表現を検討されたい。 豊中市はデジタル化では全国トップレベルなので、大阪・関西万博で自治体の成功事例として豊中モデルを展示できればいいと考える。
委員	今の時代は領域横断が重要である。デジタル化についても、分野横断的に様々な人が各種セミナーや展示会に参加し、新しいテクノロジーを見て触って経験するということが重要だと考える。若手職員にもそういった機会を与えてほしい。

発言者	内容
委員	デジタルをうまく活用することで、時間に余裕ができ、生まれた時間で人と人のつながりがつくれる。生まれた時間をぜひ市民とのつながりに使ってほしい。
委員長	これまでのICT化の主眼は業務効率化であったが、デジタル活用により空いた時間で本来やりたかったことをできるようにすることが重要である。 デジタル戦略課は一部でも本庁にある方が良い。手軽に人と会える環境が重要である。 以上で、本日の委員会は終了とする。
<閉会>	